



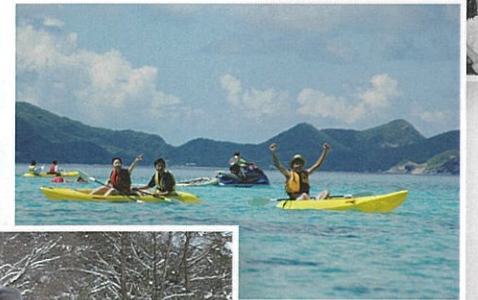
1972年(昭和47年)	1月15日	兵庫・沖縄友愛運動の声が青年からあがる
	2月29日	兵庫・沖縄友愛運動推進協議会発足
	3月31日	友愛運動推進県民会議(県民小劇場)
	4月27日~5月3日	友愛の船沖縄へ 「手をつなぐ沖縄・兵庫友愛のつどい」(那覇市民会館)
	5月7日	兵庫・沖縄友愛のつどい(神戸国際会館)
	5月15日	沖縄本土復帰
1973年(昭和48年)	11月3日	兵庫・沖縄友愛提携調印式(神戸国際会館)
	4月15日・28日	県樹の交換 15日沖縄の県樹「琉球松」を兵庫県立甲山森林公園へ 28日兵庫の県樹「クスノキ」を沖縄県立北部農林高校へ
1974年(昭和49年)	8月16日~22日	第1回青少年の交歓キャンプ (以後、兵庫・沖縄夏期友愛キャンプとして毎年実施)
	2月6日~10日	第1回青少年のスキー交歓 (以後、兵庫・沖縄冬期友愛キャンプとして毎年実施)
1975年(昭和50年)	3月31日	友愛募金締め切り、1億9千万円突破
	6月18日	沖縄・兵庫友愛スポーツセンター竣工・贈呈
1992年(平成4年)	5月~8月	20周年記念事業 沖縄県にて、バレーボール・高校野球のスポーツ交流 兵庫県にて、親善野外活動20回記念祝賀会
1995年(平成7年)	1月17日	阪神・淡路大震災 沖縄県より、島田知事の郷里にある神戸市立須磨海浜水族園に多くの魚が寄贈され、震災地への緑化支援、太田沖縄県知事(当時)のお見舞い等をいただく
2002年(平成14年)	9月16日	30周年記念式典(沖縄県立武道館)
2007年(平成19年)	3月31日	沖縄・兵庫友愛スポーツセンター閉館
2008年(平成20年)	12月26日	沖縄・兵庫友愛メモリアル募金締め切り、130万円集まる
2009年(平成21年)	3月26日	沖縄・兵庫友愛スポーツセンター跡地記念碑除幕式及び植樹(クスノキ)
2012年(平成24年)	10月28日	40周年記念シンポジウム(兵庫県公館)
2015年(平成27年)	6月26日	島田勲元沖縄県知事顕彰碑、兵庫・沖縄友愛グラウンド碑除幕式
	6月28日	友愛戦後70年記念フォーラム(沖縄県立博物館)
2016年(平成28年)	12月23日~26日	沖縄県の小中学生が兵庫県を訪問し、県内施設見学・兵庫県の小学生等との交流会を実施(以後、兵庫・沖縄青少年フレンドシップ事業として毎年実施)
		
2019年(令和元年)	11月~令和2年1月	令和元年10月31日に発生した大規模火災により焼失した首里城の再建等の支援のために、義援金を募集(募金総額:約900万円)
2021年(令和3年)	11月5日~7日	第49回兵庫・沖縄友愛キャンプ (第1回目(1973年)から延べ4,700名を超える両県青年が交流)
	12月25日	島田勲生誕120年記念・ 兵庫・沖縄友愛提携50周年記念事業



未来につなぐ「命どう宝」

ぬち たから

島田勲生誕
120年記念



12/25 令和3年 /SAT/

[12/25は島田勲氏生誕日]

時間/14:00~16:30[入場13:30~]

場所/兵庫県公館 大会議室



主催 | 兵庫県、(公財)兵庫県青少年本部 | 後援 | (株)神戸新聞社、(一財)敬愛まちづくり財団
共催 | 沖縄県、沖縄県人会兵庫県本部、(一社)城岳同窓会(沖縄県立第二中学校・沖縄県立那覇高等学校同窓会)
武陽会(兵庫県立第二神戸中学校、兵庫県立第四神戸高等女学校、兵庫県立兵庫高等学校同窓会)

兵庫県出身の元沖縄県知事である島田 叡^{しまだ へい}氏が生誕120年を迎えるにあたり、その生い立ちや功績を次世代に語り継ぐとともに、令和4年度が兵庫・沖縄友愛提携50周年であることを踏まえ、改めて沖縄友愛の絆の大切さ、平和や命の尊さを次世代に伝えます。



プログラム

- 13:30 ～ 友愛さわやかステージ
(兵庫県立兵庫高等学校吹奏楽部)
- 14:00 ～ 開会・来賓等あいさつ
- 14:15 ～ 兵庫・沖縄友愛提携 50周年記念動画の上映
- 14:25 ～ 記念講演「島田叡知事 その生と死」
【講師】五百旗頭 真氏
(国際政治学者・兵庫県立大学理事長)
- 15:35 ～ 島田叡生誕 120年にちなむ朗読劇の上映
「島守の塔」ダイジェスト映像
- 15:50 ～ 朗読劇出演者によるトークショー
舞羽 美海氏 (元宝塚歌劇団雪組トップ娘役、西宮市出身)
立花 裕人氏 (朗読劇演出・プロデューサー)
- 16:05 ～ 首里城の復興状況等についての報告
(沖縄県立那覇高等学校)
- 16:15 ～ 平和へのメッセージ (友愛宣言)
(兵庫高校、那覇高校)
- 16:30 閉会

出演者プロフィール

五百旗頭 真氏

兵庫県立大学理事長・(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長
神戸大学名誉教授、防衛大学校名誉教授、熊本県立大学特別名誉教授。京都大学卒。法学博士。専門は日本政治外交史。
神戸大学法学部教授、防衛大学校長、熊本県立大学理事長などを経て、平成30年4月、兵庫県立大学理事長に就任。
この間、日本政治学会理事長、政府の東日本大震災復興構想会議議長、くまもと復旧・復興有識者会議議長などを歴任。文化功労者。



舞羽 美海氏

2005年宝塚音楽学校入学、2011年に雪組トップ娘役に就任。2012年東京宝塚劇場公演『Jin ー仁ー』『GOLD SPARK! 一この一瞬を永遠にー』の千秋楽をもって退団。以降、映画、ドラマ、舞台で活躍。近年では『ダンス オブ ヴァンパイア』サラ役、『ピーターパン』タイガー・リリー役、舞台『鬼滅の刃』珠世役など。映画『マザー』『超高速! 参勤交代』『大コメ騒動』、ドラマ『新法廷荒らし 猪狩文助』、『早子先生、結婚するって本当ですか?』『プリンセスメゾン』など。



立花 裕人氏

テレビ報道番組キャスター、ニュースリポーター、ラジオパーソナリティのほか、作詞家、イベントプロデューサーとしても幅広く活動。沖縄のユニット「しゃかり」に楽曲提供。「忘れない～天国の大切なあの人へ～」ではプロデュースとキャスティングを担当している。



参加校の紹介

兵庫県立兵庫高等学校

【沿革と教育目標】明治41年兵庫県立第二神戸中学校として創立。平成30年創立110周年を迎えた。四綱領(校訓)「質素・剛健・自重・自治、これを貫くに至誠を以てす」の精神を日常の指導に具現し、先達の築いた栄誉ある伝統をふまえ、先進的教育に取り組み21世紀の担い手となる人材を育成する。
【武陽会(同窓会)】
【名前の由来】本校が所在する湊川河原を武陽原と呼び、同窓会を武陽会と称する。



総合的な探究の時間「探究完成発表会」

沖縄県立那覇高等学校

【沿革と教育目標】明治43年沖縄県立中学校分校として創立し翌年沖縄県立第二中学校として独立。令和2年創立110周年を迎えた。校訓「和衷協同・積極進取」の下、先達の築いた伝統を礎に文武両道を実践し、これからの時代に求められる幅広い知識・技能と豊かな人間性を備えた人材を育成する。
【一般社団法人「城岳同窓会」】
【名前の由来】那覇高等学校近くにあった小さな丘「城嶽(グスクダケ)」に由来する。



女子はネクタイを男子は学ランを高々と掲げる(卒業式)

兵庫・沖縄友愛のあゆみ

兵庫県と沖縄県は、古くから深い縁で結ばれている。

太平洋戦争の沖縄戦では、多くの兵庫県出身の若者が戦陣に散った…

同じく沖縄で壮烈な最期を遂げた官選知事である島田叡氏も兵庫県出身であった。

また、沖縄と本土を結ぶ海や空の玄関である神戸、伊丹があるのも兵庫。

明治中期に沖縄～本土航路を開設して以来、多くの方が沖縄から兵庫に渡り、兵庫の地を第二の故郷として活躍されている。

このような結びつきを背景に、本土復帰直前の昭和47年1月、兵庫県内では「沖縄の人々と心のふれあいを深め、お互いに励まし合おう」と青年を中心に友愛運動が展開され、瞬く間に全県運動へと広がった。同年11月には両県の友愛提携が結ばれ、永遠の友情を確認した。

その後、沖縄へ青少年施設「沖縄・兵庫友愛スポーツセンター」を贈るための募金活動をはじめ、中学生や高校生によるスポーツ交流、農業技術の交流など幅広い分野にわたる交流を続けてきた。中でも、両県青年による夏の沖縄、冬の兵庫の友愛キャンプは、49年にわたり続けられている。

最近では、戦後70年を記念して、スポーツセンター跡地近辺に「島田叡元沖縄県知事顕彰碑」及び「兵庫・沖縄友愛グラウンド碑」が新たに建設されたほか、平成28年より、沖縄県の小中学生が兵庫県を訪問し、兵庫県の小中学生と交流する「兵庫・沖縄友愛フレンドシップ事業」を実施している。

さらに、沖縄県首里城において、令和元年10月に発生した大規模な火災により、正殿等が焼失した際には、多くの兵庫県民が悲しみ、復興を祈って募金に協力した。

友愛の絆は過去から未来に向けて脈々と受け継がれている。



中学生・高校生によるスポーツ交流



島田叡知事の功績

「俺が行かなんたら、誰かが行かならんやないか。
俺は死にとうないから誰か行って死ねとはよう言わん」

明治34年(1901年)12月25日、兵庫県神戸市に生まれる。兵庫県立第二神戸中学校(現：県立兵庫高等学校)、第三高等学校、東京帝国大学法学部を経て内務省に入省。

昭和20年1月31日、最後の官選知事として、米軍上陸が間近に迫る沖縄県に赴任。就任後は、沖縄県民のために疎開誘導や食料調達に奔走し、多くの命を救った。民を守るため、軍に対して厳しい態度で臨む一方、県民に対しては同胞愛を持ち、ユーモアあふれる人柄で接したことなどから、沖縄県民にとって島田氏の存在は心の支柱となっていた。

同年3月、米軍上陸が始まり、空からは「鉄の暴風雨」が降り注いだ。国内最大規模の激しい地上戦が開かれた沖縄は、地獄の戦場となったが、島田氏は壕を転々としながら最期まで県民のために政務を執った。わずか5ヶ月足らずの在任であったが、常に県民の命、幸福を第一に考え行動し、一身を賭して職務に尽力したことから、戦後、「沖縄の島守」と称され、今なお多くの県民に慕われ続けている。

島田氏、そしてともに殉職した県庁職員の魂は、島田氏最期の地とされる糸満市摩文仁の「島守の塔」で安らかに眠っている。

